

刊夕日十三月六

定散の一善

眞

繼

雲

山

善導大師の「散善義」は必ずしも大師の獨創ではなくそれは佛說三部經中において時處をへだて、親しく釋尊の聲を聞かれたのでその領解が散善義の一書となつてゐると思はれる。

散善義といふのは定善散善といふ觀經所說の文句から來てゐる、釋尊は觀無量壽經において人間の善を十六通りに區分せられた、これを二分すると一から十三まで十三通りの上篇が定禪であり、十四から十六までによつて淨土を觀じ極樂に往生するの方法であつて、既に禪定に止住し得ば淨土を觀することは容易な筈である。

定善といふのは定心すなはち禪定、換言すれば悟りによつて淨土を觀じ極樂に往生するの方法であつて、既に禪定に止住し得ば淨土を觀することは容易な筈である。

しかし人間の心は、もとより浮動し散亂してゐるので容易くは定心は得難い、そこで若し禪定に住し悟りを開いたものでなくては往生が叶はぬといふことになつてみると、悟り得ぬ者の立つ瀬はなく、凡夫往生の道は無い事となる、この故に釋尊は、必ずしも定善によりとも散亂の心のまゝ

にして往生する道があるとして十四、十五、十六の三通りの道を教へられた、これが散善三觀といはれるもので、その散善とは禪定に

乗の善といふ三通りの善きにして、その代り廢惡修善といふて世間の善、小乘の善、大乗の善といたりでよいから、その代り廢惡修善といふて世間の善、小乘の善、大乗の善といふ三通りの善き行ひをせよ、左すればそれへられた、ところが私たち凡夫はもとより惡心あつて善なき煩惱のかたまりであつて、その散善とは禪定に入ることが出来なければ、

心の散亂したまゝでよいから、その代り廢惡修善といふて世間の善、小乘の善、大乗の善といふ三通りの善き行ひをせよ、左すればそれへられた、ところが私たち凡夫はもとより惡心あつて善なき煩惱のかたまりであつて、その散善とは禪定に入ることが出来なければ、

心の散亂したまゝでよいから、その代り廢惡修善といふて世間の善、小乘の善、大乗の善といふ三通りの善き行ひをせよ、左すればそれへられた、ところが私たち凡夫はもとより惡心あつて善なき煩惱のかたまりであつて、その散善とは禪定に入 paramString



定價一部金一ヶ月金五拾錢郵稅五厘
廣告料五錢十二字估一行金五拾錢
日曜祭日之翌日休刊
發行處新嘉坡英都平街長橋三五
總經理人白利人川崎文治
印務所常磐電話六三〇番
社員常磐電話六三〇番
日

X 光線科
外性病科
平町田町
安齊外科醫院
電話四七五番
意隨院入

涼味百パーセント菊地の白靴
お若い方にノーブル型
最新角型はモダン好み
お中年の方は先細型
とてもシイクで値が安い
當店自慢のリネンシュー
三二〇ヨリ五〇〇マデ
平四菊地靴鞄店
電話(呼)四三六

耳鼻咽喉科專門

氣管食道科

平南町 (電話四八二番)

大和田醫院

上野驛ヨリ (自動車約十五分)

（茶代不用）

東京市本郷駒込追分町

木下やみ

僅か五十圓の出資で 海外に土地を持てる

平町で移住希望者を調査

本縣では海外移民事業として從來の労働移民の外に相當資力を有し、自作農を營み得る者の爲めに海外移住組合を設立し、定着土地を海外に所有せしめ、縣人の永久的獨立農場を設ける事となつたので、昨日平町役場にも右組合加入の希望者が概數を調査せられ度い旨の通牒があつたので直に各區長を通じて調査を開始した因に前記海外移住組合は、會員及び家族に対する海外殖民主義の喫緊なるは云ふ迄もない處であるが此の目的を眞に達成せしむるには單に労働移民の送り出に止まらず、更に相當資力ある者を自作農として定着せしめ開拓事業に就かせなければならぬ。

此点から考へれば、縣の海外移住組合は、將來獨立せしめねばならぬ運命にある子弟の爲めには最良の

施設であると思ふ。

「我國現下の状勢に鑑み、あらう右に關し伏見町長は語る。

『畜産馬組合では來月十二日より左記日割を以て蕃殖牝馬の健康診断を行ふと

（三坂）七月十二、十三日（澤渡）十四、十五日（永戸）十六、十七日

（大浦）中野惣吉

（四倉）小野善太郎

（神谷）酒井良平

（大浦）中野惣吉

（四倉）小野善太郎

（大浦）中野惣吉

（大浦

平商新校長は

海外で活躍した人

福商には六年間

平商業學校長から小樽商業學校長に榮轉した吉田利
吉氏の後任矢野泰次郎氏は鹿兒島縣の出身にて東京
高等商業學校を卒業後實業界に入り暫く海外に於て
活躍して後福島商業學校教諭に就任今日に至つた人
で教鞭を執る事六年間、四十二歳の勵盛りであると

子殺し事件

裁判長を

伏し拜む

執行猶豫の

同情ある判決

既報平町字古銀冶町三十一番地炭礦坑夫高萩信吾(四)に係る子殺し事件の言渡し公判は本日午前九時より平支部に於て開廷されたが中島裁判長より懲役二年に處す且し執行猶豫四年間と言渡され涙を流し裁判長を伏し拜んで下がつた

道路に

繩の大袋

平驛前磐城タクシ一方運轉手小林吉之助(三)は昨夜七時頃トラックを運轉し小川村地内縣道を進行中道路にて十貫匁入乾燥繩の大袋一個を拾得し平署に届出たので同署にて各地に照會の結果右は田村郡片舟根村字船引船引製糸工場にて同日四

失業者の妻から

甘言で捲上ぐ 其儘逃走して

潜伏中に詐欺

石城郡内郷村白水炭礦坑夫北海道鶴田郡湯川村生れ佐々木鶴松(四)は本年三月頃同僚の柴田治英が失業したのを奇貨として同人の妻フサ(三)に甘言を以つて云ひ寄りお召羽織外四点時價四十圓餘及び百五十圓記入の貯金通帳を捲き上げて逃走したので豫てより平署にて行衛嚴探中の處同人は四月

前半より耶麻郡猪苗代町本町八子彌壽平氏所有の磐梯山硫黃採取所に工夫として働く内五月初旬頃より硫黃山賣却を種に所有者よ

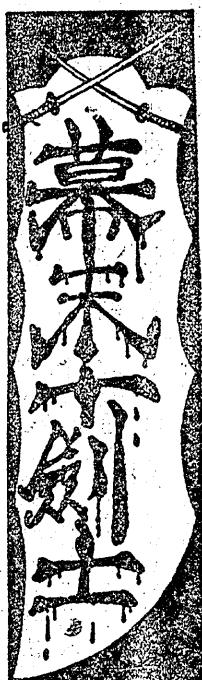
り二回に亘り三百五十圓を詐取し猪苗代町九軒町小野吉(二)といひ他にも平町にて數件荒し廻つた形跡あり

目下取調中である

日本ビクター蓄音器會社平樂館に於いてビクター新作レコード大演奏會を開催する事となつたが入場無料で

あるのと餘興として平町藝妓連の手踊もある入場料は無料

日本ビクター蓄音器會社平樂館に於いてビクター新作レコード大演奏會を開催する事となつたが入場無料で



【葵轉載上演及映畫】

悟道軒圓玉演
近藤紫雲畫

第八十九席

眞庭念流達人櫻井五助

殺して来ておくれ

眼球の藤太郎は血の滴る

脇差を幸次へ突きつけて

藤『ヤイ賭場を荒されたと

思つたら勝負をしろ、抜か

ねいか』

それを聞いて他の客人は

○『藤太兄イお前等がが手

を下すまでの事は無え、こ

の野郎は俺が方で縊てしま

ふ』

多勢幸次を取巻た、其時

女房のおかねが其處へ来て

かね『どうぞ皆さん、お腹

も立ちませうがこの人の命

は助けて下さい、お願ひ申

します』

○『どうすべえ藤太兄イ』

藤『殺した處で手柄にもな

らねえ、この女に免じ命だ

けは助けて遣りませう、ヤ

イ幸次てめえも相ノ川では

少しは人に知られたものだ

恥を知れ、さア皆さん金を

持つてお出なせえ』

○『有難えおめえさんのお

蔭で取られた金を返した

ハイ有難うござります』

是から一同で金を分けた

が十兩取られた人が廿兩持

つて行く、その金は幸次の

物酷い目に遭へば遭ふもの

藤太郎も五十兩ばかり度中

に捨込んで血刀を拭ひ靴に

○『行くべえ、こんな處に

長居は出来ねえ、馬鹿野郎

子『これから先どうしたら
云はれてホツと吐息を
洩した幸次

幸次、ほんやりしてると
云はれてホツと吐息を
洩した幸次

子『これから先どうしたら
云はれてホツと吐息を
洩した幸次

幸次『どうも仕方が無え、身
から出た鎧だ、もうこの土
地には居られねえ』

幸『然うだ野郎の歸りを途
中に待受けて息の根を止め
打は夜道などは何とも思ひ
ません、うるさくなくつて
宜い位なもの

藤岡『大分酔つて來た、空腹
だから利きが宜いや、オヤ
／＼又落ちて來たどういふ
譯で五月は懲う雨が降るか
懲うと知つたら傘を借りて
来れば宜かつた、まだ宜い
や濡れて歸るも風流だらう
それはさうと幸次は驚いた
らうナ、今頃は泣いて居る
だらう、シテ見れば此雨は
幸次の涙雨だ、先づ彼奴も
此土地には居られぬえ、あ
んな吝な博奕打は居ぬえ方
が宜い、長脇差一同の恥だ
夢中に歩いて來たがウーン
一本松だ、酔つて居ても道
は間違えぬえ、淋しい處だ
オヤ／＼何んだえ此處は、
福島縣平町【電話營業部】
明治生命磐城代理店 山崎與三郎

子『其のが宜うござんすね
え、姐さんあの藤太をつれ
て今夜殺らして了ひます』

かね『後生だから殺して來
てくれ、私は家を片付て
直にお前方と一緒に此處を
逃げるから、然し親分相手
待てよ殊によると此所に幸



子『これがら先どうしたも
のでございません』

幸『大丈夫だ、三人揃つて
口出て行きました、此方は
子分が

子『これから先どうしたも
のでございません』

幸『大丈夫だ、三人揃つて
口出て出れば、何んの藤太
の一人位屹度殺らしてその
首をてめいに見せてやる』

幸『大丈夫だ、三人揃つて
口出て出れば、何んの藤太
と光つた、一足下つた藤太
郎』

藤『出たナ有難い、待つて
ゐた、さア來イ』

幸『然うだ野郎の歸りを途
中に待受けて息の根を止め
打は夜道などは何とも思ひ
ません、うるさくなくつて
宜い位なもの』

藤岡『大分酔つて來た、空腹
だから利きが宜いや、オヤ
／＼又落ちて來たどういふ
譯で五月は懲う雨が降るか
懲うと知つたら傘を借りて
来れば宜かつた、まだ宜い
や濡れて歸るも風流だらう
それはさうと幸次は驚いた
らうナ、今頃は泣いて居る
だらう、シテ見れば此雨は
幸次の涙雨だ、先づ彼奴も
此土地には居られぬえ、あ
んな吝な博奕打は居ぬえ方
が宜い、長脇差一同の恥だ
夢中に歩いて來たがウーン
一本松だ、酔つて居ても道
は間違えぬえ、淋しい處だ
オヤ／＼何んだえ此處は、
福島縣平町【電話營業部】
明治生命磐城代理店 山崎與三郎

子『これから先どうしたも
のでございません』

幸『大丈夫だ、三人揃つて
口出て出れば、何んの藤太
の一人位屹度殺らしてその
首をてめいに見せてやる』

幸『大丈夫だ、三人揃つて
口出て出れば、何んの藤太
と光つた、一足下つた藤太
郎』

藤『出たナ有難い、待つて
ゐた、さア來イ』

幸『然うだ野郎の歸りを途
中に待受けて息の根を止め
打は夜道などは何とも思ひ
ません、うるさくなくつて
宜い位なもの』

藤岡『大分酔つて來た、空腹
だから利きが宜いや、オヤ
／＼又落ちて來たどういふ
譯で五月は懲う雨が降るか
懲うと知つたら傘を借りて
来れば宜かつた、まだ宜い
や濡れて歸るも風流だらう
それはさうと幸次は驚いた
らうナ、今頃は泣いて居る
だらう、シテ見れば此雨は
幸次の涙雨だ、先づ彼奴も
此土地には居られぬえ、あ
んな吝な博奕打は居ぬえ方
が宜い、長脇差一同の恥だ
夢中に歩いて來たがウーン
一本松だ、酔つて居ても道
は間違えぬえ、淋しい處だ
オヤ／＼何んだえ此處は、
福島縣平町【電話營業部】
明治生命磐城代理店 山崎與三郎

お味噌油は

醤油味噌
たひら正宗
鰹節 食料品

山崎合名會社

鹽屋

福島縣平町【電話營業部】
明治生命磐城代理店 山崎與三郎

時計橋

貴金属
時計及眼鏡類
懷中電燈
キミガヨ電氣
ランプ特約店
時計店
路小槌町平

高橋時計店

貴金属
時計及眼鏡類
懷中電燈
キミガヨ電氣
ランプ特約店
時計店
路小槌町平

岩井別府林業

りん病
天下の名湯別府温泉で出来た無効返金責任薬
藤『洒落た真似をするナ、おめえの命乞ひがなければ幸
子『居られねえとすれば藤
太の野郎を生しては置けま
うとは知らぬ藤太郎、客人
に別れて館林の町の小料理
屋は且那方もおとなしく歸ん
なさる、能く後で意見をし
てあるぞ、さア斬るなら斬
つて見ろ』

藤『出たナ有難い、待つて
ゐた、さア來イ』

幸『然うだ野郎の歸りを途
中に待受けて息の根を止め
打は夜道などは何とも思ひ
ません、うるさくなくつて
宜い位なもの』

藤岡『大分酔つて來た、空腹
だから利きが宜いや、オヤ
／＼又落ちて來たどういふ
譯で五月は懲う雨が降るか
懲うと知つたら傘を借りて
来れば宜かつた、まだ宜い
や濡れて歸るも風流だらう
それはさうと幸次は驚いた
らうナ、今頃は泣いて居る
だらう、シテ見れば此雨は
幸次の涙雨だ、先づ彼奴も
此土地には居られぬえ、あ
んな吝な博奕打は居ぬえ方
が宜い、長脇差一同の恥だ
夢中に歩いて來たがウーン
一本松だ、酔つて居ても道
は間違えぬえ、淋しい處だ
オヤ／＼何んだえ此處は、
福島縣平町【電話營業部】
明治生命磐城代理店 山崎與三郎

恩給年金
簡易保険即時立替
無盡通帳賣買
其他債券

平町一丁目一四番地

鈴木重藏

次が綱を張つてゐるかも知
れぬえ、こいつは油断は出
来ねえぞ』

獨言を言ひながら庚申堂
の前まで来る途端にビカリ
と光つた、一足下つた藤太
郎

藤『出たナ有難い、待つて
ゐた、さア來イ』

幸『大丈夫だ、三人揃つて
口出て出れば、何んの藤太
と光つた、一足下つた藤太
郎』

藤『洒落た真似をするナ、おめえの命乞ひがなければ幸
子『居られねえとすれば藤
太の野郎を生しては置けま
うとは知らぬ藤太郎、客人
に別れて館林の町の小料理
屋は且那方もおとなしく歸ん
なさる、能く後で意見をし
てあるぞ、さア斬るなら斬
つて見ろ』

藤『出たナ有難い、待つて
ゐた、さア來イ』

幸『然うだ野郎の歸りを途
中に待受けて息の根を止め
打は夜道などは何とも思ひ
ません、うるさくなくつて
宜い位なもの』

藤岡『大分酔つて來た、空腹
だから利きが宜いや、オヤ
／＼又落ちて來たどういふ
譯で五月は懲う雨が降るか
懲うと知つたら傘を借りて
来れば宜かつた、まだ宜い
や濡れて歸るも風流だらう
それはさうと幸次は驚いた
らうナ、今頃は泣いて居る
だらう、シテ見れば此雨は
幸次の涙雨だ、先づ彼奴も
此土地には居られぬえ、あ
んな吝な博奕打は居ぬえ方
が宜い、長脇差一同の恥だ
夢中に歩いて來たがウーン
一本松だ、酔つて居ても道
は間違えぬえ、淋しい處だ
オヤ／＼何んだえ此處は、
福島縣平町【電話營業部】
明治生命磐城代理店 山崎與三郎